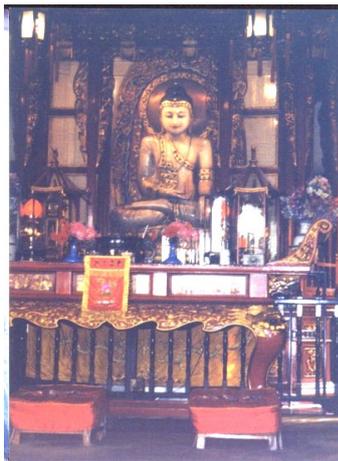


上海の寺 上海三大寺院、玉仏寺・龍華寺・静安寺・真如寺

玉仏寺

上海に残る禅宗寺院玉仏寺は、1882年の創建。普陀山の僧侶慧根(えこん)がビルマから白い玉石から作られた5体の玉仏を持ち帰る途中、2体を上海に残したのがはじまりです。開祖は浙江省普陀山の僧、慧根上人である。上人は唐代の玄奘法師(三蔵法師)が經典を求めインドに向かったのに習い、中国四大仏教名山の五台山(現四川省内)、峨眉山(現山西省内)を巡り、四川からチベットに出てミャンマーに向かった。上人は、ここで美しい玉が豊富に産出されることを知り、またその仏像彫刻の素晴らしさにも感銘をうけ、ミャンマー王の許可の下、華僑である陳君普の援助に助けられ、大小5つの玉仏を手に入れた。普陀山に帰る途中上海に立ち寄った上人は、当時貧しかった上海民衆のために座仏・臥仏各1体を残していったのであるが、これが玉仏寺の始まりである。その後、辛亥革命(1911年)の折には寺が一時的に占拠され、玉仏は麦根路(現在の淮安路)の借家に移された。1918年、現在の寺院建設が開始され、1929年に落成、今日に至る。なお、玉仏寺は禅宗・臨済宗に属しており、この時から「玉仏禅寺」とも呼ばれるようになった。大雄宝殿は寺院の中心であり、1mあまりの高台の上に立てられている。内部には3体の大きな仏像が据えられている。中央が釈迦牟尼仏、東側が薬師仏、西側が阿弥陀仏。玉仏一座。般若丈室の二階にあり、釈迦牟尼が悟りを開いた時の姿を表している。高さ195cm、一つの玉から彫りだされているという。ただし通路から玉仏まで3mほど距離があり、近くで見ることができないのが残念だ。玉仏一臥仏入って左奥の臥仏堂のなかにある。釈迦牟尼が最期の時を迎えようとしている姿を表したもので、白玉石で造られた釈迦涅槃像(涅槃仏陀臥像)が祀られている。大きなガラスケースに入っている。



ビルマから運ばれた仏座 ビルマから運ばれた玉仏臥仏 玉仏臥仏 (写真拡大) (涅槃仏陀臥像)



道路に面した山門



中国にしては境内が狭い



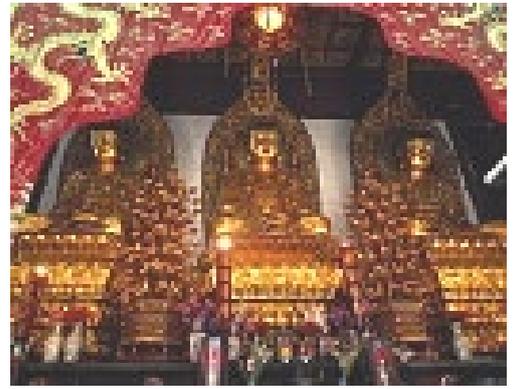
大雄寶殿



境内には大きな香炉



大雄寶殿にしては変わった山号額



大雄寶殿内の釈迦三尊



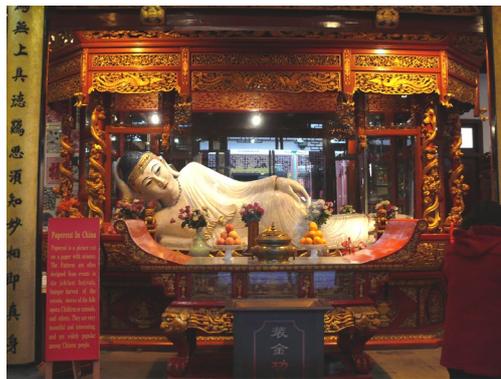
上海の中心街である為か伽藍と伽藍の間が非常に狭い



土産売り場とお茶飲み場



白の千手観音



ビルマから運ばれた玉仏臥仏の摸写



何の仏様ですか

龍華寺。上海最古の寺院三国時代の呉王孫権によって、三国呉赤鳥五年(紀元 242 年)に建立したとも伝えられる。何度も建て直されており、現在の境内の建築は光緒年間に建造されたもの。最大規模の仏教寺院で、敷地面積は 2 万 m² 以上。龍華寺の建築は雄大で、彫塑は精美、仏具は珍しいものが多い。北宋時代の 977 年に再建されたのだそうです。木とレンガでできた七重、八角の塔は高さ約 40 メートル。龍華寺とその前に建つ龍華塔は、上海でも指折りの名勝だ。三国時代に呉の孫権が、夫に先立たれた母の悲しみを慰めるために建立したのが始まりと言われる。そのため龍華寺と龍華塔は、それぞれ「報恩寺」「報恩塔」とも呼ばれる。建築様式は宋代の宋伽藍七堂制。弥勒殿、天王殿、大雄宝殿、三聖殿、方丈室、藏経楼が中央にまっすぐ並んで建ち、その両側には鐘楼と鼓楼がある。この並び方は龍の姿をあらわしている。大雄宝殿が頭部、鐘楼と鼓楼が耳、東西の門前町の中にある二つの井戸が龍の両目であると言われている。明代の神宗皇帝から下賜された 3 つの宝がある、**金印・ルシャナ仏・經典**であり、あわせて**三宝**という。(禅宗の寺)



石門龍華文字の大きな山号額



立派な山号額



龍華寺山門



大雄寶殿



広い境内には大勢の参拝客



大きな鑄物の香炉



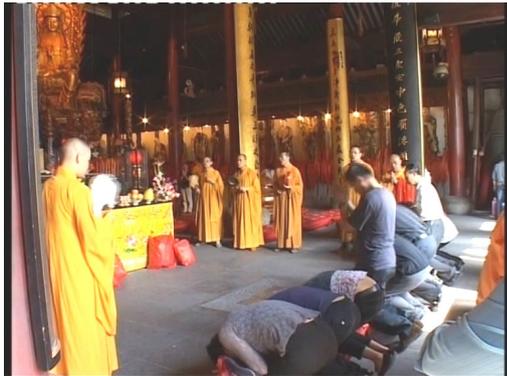
白い釈迦像



大雄寶殿内の釈迦坐像



お経を読みながら本殿を歩いている僧侶



手を合わせ一生懸命のお参りです



本堂の左右にはどの様な羅漢ですか



千手観音



見事な厨子内は韋駄天



何三尊ですか？



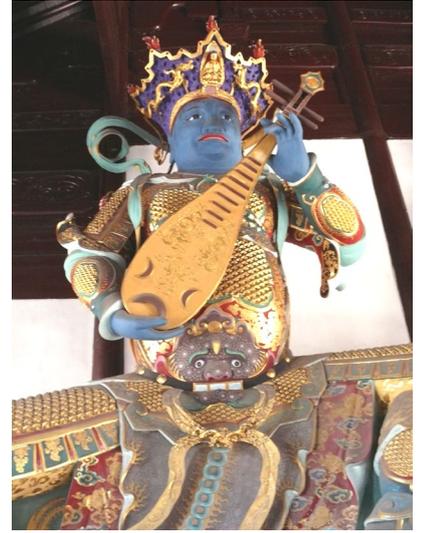
王天目廣方西



王天目廣方北



王天目廣方南



王天目廣方東



鐘樓



鼓樓



龍華塔

静安寺 (ちんあんすー)

境内の「赤烏碑」の記録によると、呉の孫権の 247 年 (赤烏 10 年) に西域出身の康僧会により建てられた、とされる。元の名前を滬瀆重元寺といい、呉淞江の北岸にあった。唐の時、一度永泰禅院と改名。北宋の太宗の 1008 年 (大中祥符元年) に今の静安寺となった。南宋の 1216 年 (嘉定 9 年) の時に、住職が洪水に悩まされる為、寺を現在の場所に移した。元乃時代、香火が絶えず、境内の 8 か所の名所は「静安八景 (赤烏碑、陳朝檜、講経台、蝦子潭、涌泉、緑雲洞、滬瀆壘、蘆子渡)」と命名され、名が知れ渡り、山門の前の湧泉は更に「天下第六泉」と誉め称えられた。明太祖の 1369 年 (洪武 2 年) 静安寺は 1 枚銅の鐘 (洪武大鐘) を鑄造して、今なお寺宝として残っている。

1860 年 (咸豊 10 年)、太平天国の軍隊は上海西の郊外まで進撃して、静安寺の堂塔は戦火で倒壊した。わずかに残った 1 基の堂宇は数年のちに倒壊して、仏像は覆う堂宇がなく風雨に晒された。1880 年、胡雪巖などの出資援助のもとで、静安寺は再建されて、1 年後に竣工した。その後毎年、中国暦 4 月 8 日の釈迦の誕生日に寺廟の縁日を行って、上海の一つの重要な民俗習慣となり、1963 年まで続けられた。1953 年、持松法師は、境内に真言宗の壇場を創立して、五代以来長く絶えていた密教の道場が開設された。1966 年、文化大革命の初め、仏像、法器は徹底的な破壊に遭って、持松法師は迫害に遭って、僧侶はしかたなく還俗して、寺は改築してプラスチックの工場となった。1972 年、仏殿は火事となり焼失、静安寺は一面の廢墟となった。1979 年以後、中国は再び宗教の場所を開放する。1983 年、国务院は漢族地区の仏教の全国重点寺院の 1 つに静安寺を認定する。1984 年以後、静安寺は再建が始まり、続々と赤烏山門、天王殿、三聖殿、功德堂、方丈室などが建築された。1990 年、基本的な修復を終えて静安寺は対外開放をする。1991 年 5 月 12 日、仏殿の仏像の開眼式が行われ、寺域は中華民国の時期の規模まで回復した。現在、静安寺は中国内陸の最も重要な**密教**の**真言宗道場**である。なお、2008 年 6 月現在、本殿は全面改築中であり、一部仏像が旧本殿地階部分において公開されている。鐘楼の下にあった、真ん中にコインが入ると幸せになれるスポットがある。大雄宝殿にある。釈迦牟尼玉仏像は高さ 3.9m、台座から高さは 5.4m 重さ 11 トンで、玉石で彫刻されています。反対側には南無大悲観世音菩薩もあります。境内には大きな香炉。大雄寶殿にしては

変わった山号額大雄寶殿内の釈迦三尊



中心街ある寺



山門右横にはアショーカ王柱・四頭獅子柱頭



右には大きな立派な鐘樓



左には大きな立派な鼓樓



道路ぞいの鼓樓下部は地下鉄の入



大雄寶殿は金の屋根



広い境内



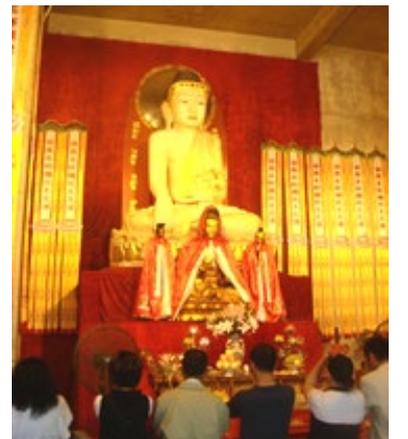
大雄寶殿の左右には大きな伽藍



大雄寶殿に上がる階段中央に大きな龍



大きな鑄物の香炉



白玉仏



真ん中にコインが入ると幸せになれる



明太祖の1369年の梵鐘



下から見た梵鐘

真如寺

最近改装されたみたいで、中はとっても新しくキレイなお寺ですが、歴史もある、全国重点文物保护单位に指定されているようです。しかも、中国のお寺は、黄色の壁とかで結構ハデハデな寺が多いのですが、ここは白い木目調な感じで、日本人的にも落ち着くお寺です。階段を必死に登らないといけないのですが、塔もあり登りました。



大きな石碑



山門



山号額



一生懸命お参りしています



大きな伽藍



大きな鑄物の香炉広い境内



銀杏の木 大雄寶殿の後ろには仏塔



立派で大きな大雄寶殿



立派なご厨子に弥勒菩薩



弥陀三尊が立派なご厨子に



白玉仏



灌仏会(かんぶつえ)ですか



誕生仏



四面の弥陀如来仏ですか



天井は何を意味していますか



白玉仏



白玉仏の涅槃 珍しい



机の上でお勤めしています



真如寺と書かれたお鈴



伽藍内の太鼓



木魚



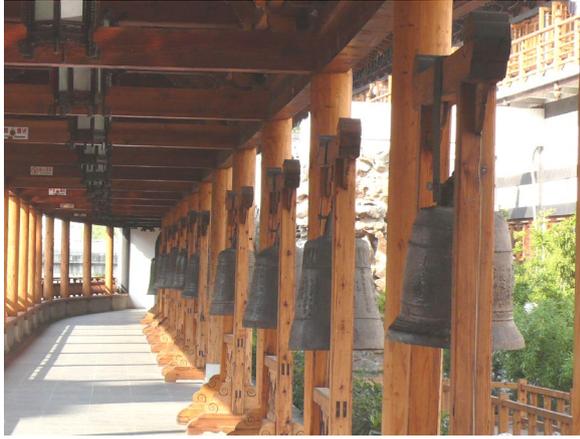
9層の塔



塔から見た真如寺全景



塔から見た町の全景と水産市場の全景



梵鐘が歴史順に飾られている



一番古い梵鐘



一番新しい梵鐘



大きな青銅の香炉



魚槲 (ぎょほう)



色々な石碑が立ち並ぶ